

令和元年度病害虫発生予察 技術情報 第3号

令和元年 8 月 8 日

大分県農林水産研究指導センター

農 業 研 究 部

コブノメイガの発生について

本年度はコブノメイガの発生が多く、被害ほ場が平年よりも多く認められます。止葉の多くが加害されると減収につながるので、適期に防除を実施してください。

【作物名】 水稻

【病害虫名】 コブノメイガ

1 対象地域 県内全域

2 今後予想される発生量 やや多い

3 防除時期 液剤又は粉剤による防除の場合：発蛾最盛期の5～7日後
粒剤による防除の場合：発蛾最盛期

4 発蛾最盛期 6月2半旬飛来分：8月4半旬、
6月6半旬飛来分：8月2半旬、9月2半旬

5 根拠

- (1) 7月30日～8月2日の巡回調査では、発生ほ場率 35.0% (平年 20.0%)、25株当たり苞数は1.1苞 (平年 0.9苞) と平年に比べ発生が多かった。
- (2) 予察灯へのウンカ類の飛来状況や他県の状況から、7月中旬にもコブノメイガの飛来があったと推測され、今後さらに被害量が増加することが予想される。
- (3) 農林水産研究指導センターの予察圃場における8月5日の調査では、25株当たり苞数は50.8苞 (平年 0.3苞) と平年を大きく上回っている (表1)。
- (4) 気象予報によれば、向こう1か月の気温は平年並～平年より高い確率が90%、降水量は平年より少ない～平年並の確率が70%と予想されており、コブノメイガの発生に好適である。

6 防除上の注意事項

- (1) ほ場での発生状況を確認し、8月上旬の要防除水準（白変葉が株率で10%以上）を超える被害が認められる場合には防除を行う。なお、8月上旬現在のコブノメイガの主な発育ステージは蛹～成虫～卵期となっている。被害葉が目立ちにくい場合もあるので被害株の確認に当たっては、新葉のみならず、下葉を含めて確認する。今後、8月中旬にかけて被害葉の増加が予想されるが、被害が目立つようになってからの防除では十分な防除効果が得られないので適期の防除を行う。
- (2) コブノメイガの飛来は複数回あったと考えられることから、6月2半旬飛来分の発蛾最盛期（8月4半旬）を基準に防除を実施する。
- (3) コブノメイガは、窒素過多で葉色の濃いイネに被害が集中する傾向があるため、過度の窒素肥料の施用は控える。
- (4) 薬剤散布については、農薬使用基準（使用濃度、使用回数、収穫前使用日数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。
- (5) なお、使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照してください。

（ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>）



表1 予察田におけるコブノメイガの発生状況（2019）

		7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上	9月中	9月下	10月上旬
		7/5	7/16	7/25	8/5						
本年	苞数	0	0	1	50.8						
平年	苞数	0	0.1	0.1	0.3	0.5	1.4	0.4	0.6	0.0	0.0
平年比(%)		0	0	711.1	20320.0						

注1) 数値は25株当たりの被害苞数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2011～2018年の8年間平均値